



# たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校 令和5年5月2日

【学校の教育目標】

夢と希望をもち 未来社会を  
心豊かに たくましく生きる  
喜沢っ子の育成

5月号

## 笑顔と望ましい行動を増やす『ポジティブ行動支援（PBS）』の薦め

校長 手塚 浩

本校では、令和2年度から子供たちの望ましい行動を増やすSWPBS（スクールワイドピービーエス：学校全体で取り組むポジティブ行動支援）に力を入れて取り組んでいます。ポジティブ行動支援（以下、PBS）は『行動』に着目します。子供の行動に着目するとき、大人はどうしても問題行動等の望ましくない行動に目が行き、その行動を直そうと注意や叱責をしてしまいがちです。しかし、それでは一時的に望ましくない行動は止まりますが、その後持続的に改善されたり、なくなったりするような成果にはなかなか結びつきません。

PBSでは、人は同時に2つ以上の行動をとれないことから、望ましい行動を増やしていくことで、必然的に望ましくない行動が減っていくと考えます。罰や叱責で「望ましくない行動を止める」のではなく、望ましい行動を育てる環境を整え、できていることを認めたり、褒めたりすることで、望ましい行動を増やしていきます。学校では以下のように取り組んでいます。

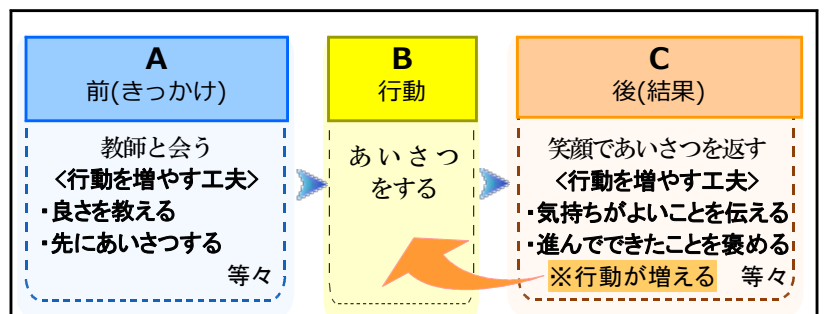
### 1 期待される姿、学校生活での望ましい行動を子供たちと共有します

望ましい行動を増やすには、まず当事者の子供が望ましい行動を知る必要があります。本校では期待される姿を「3つの大切」として子供たちと教職員で大切にしています。ほとんどの児童がこの3つの大切を言うことができます。また、学校生活での具体的な望ましい行動は、行動目標設定表（マトリクス表）にして、全教室に掲示し子供たちと共有しています。ここで示す内容はあまり高度ではなく、意識すればできる具体的な行動の姿を示すことが大切です。そして、ここで示された望ましい行動が見られたときには、すぐに全教職員で認めたり、称賛したりしています。行動の後に良い結果（認められる、褒められる等）が得られると、その行動が増えています。



### 2 行動を3つに分けて考え、望ましい行動を増やす支援策を考えます

行動は、その前後の出来事や周囲の関わり方によって変わります。PBSでは行動をABCの3つに分けて考えます。中央のBの行動は、その行動の直前のAがきっかけとなって起こり、行動直後のCによって、その後増減します。例えば、「あいさつをする」という行動のBは、教師と会うというAがきっかけとなって起こります。その時、あいさつができたことで褒められるCがあると、その行動が「望ましい行動」として認識し、その行動が増えます。さらに、「あいさつをする」という行動を増やすために、事前にあいさつをする良さを教えるなど、きっかけとなるAを工夫することで一段と効果が期待できます。



さらに、「あいさつをする」という行動を増やすために、事前にあいさつをする良さを教えるなど、きっかけとなるAを工夫することで一段と効果が期待できます。

PBSはご家庭でも実践できます。お子さんと大切にしたい目標と望ましい具体的な行動の姿を共有し、称賛や承認などポジティブな方法でお子さんにとって生活の質の向上に結びつく行動を育てていただければと思います。